



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第212号 2019年11月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和1年10月31日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

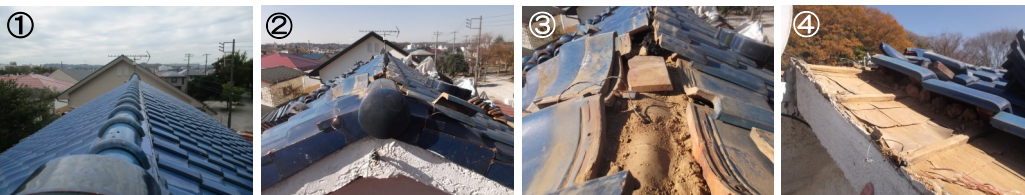
屋根の下地①

このたびの台風15号及び19号により被害を受けられた皆様、
ならびにご家族の方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。
一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げるとともに、弊社
としまして、お問い合わせいただいた皆様のお住まいが応急処
置ではなく、安心してお過ごしいただけるように迅速に取り組んで参ります。



暴風により屋根材が飛ばされて、雨漏りを懸念されるお問い合わせを数多く
いただきました。先月号に引き続き、今月号も関連したテーマ「屋根材の下地」に
ついてご説明させていただきます。結論としましては、瓦やカラーベストコロニ
アル、金属板のそれぞれの屋根材の下に施工されている防水シートが機能すれ
ば、ある程度の雨漏りは防ぐことができるということです。

(すまい造りメール第211号参照)



日本瓦は、①漆喰等で固定された②棟の部分を取り除くと③下地の木部の上に土
が固められ両側に瓦が敷き詰められています。その下にコロニアルと同様に防水
シートが敷かれています。④瓦の補強については飛ばないように針金等で緊結す
る方法があります。

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. 創刊 2002.4.1. **Next100**

ホームページをご覧いただき、令和1年6月に屋根の補修工事を
担当させていただきましたが、今回は外壁塗装工事から屋根の張り
替え工事に至った工事についてご紹介させていただきます。



屋根と外壁の塗装工事を9月末ごろから予定していましたが、9月9日に直撃し
た台風15号の影響で、屋根（瓦、板金、樋）の一部が大きな被害を受けました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

台風直撃後の建設業界の混乱ぶりについてはすでにご案内させていただきました
が、この現場では建設足場が運よく確保することができ、予定より遅れて補修
工事から着工しました。今後の台風に対する備えとして、急きょ、瓦からカラー
ベストコロニアルに張り替えることになりました。協力業者様のご協力により、
台風19号が来る前に張り替え工事の80%以上が終わり、事
なきを得ました。お問い合わせいただいている皆様にも
安心してお過ごしいただけるように迅速に取り組んで参りま
す。申し訳ありませんが、いましばらくお待ちください。



よこすか文学館

<47>

横須賀に生まれ育ち、高
浜虚子の俳句理念を継承
し、長年にわたり活動を
続けた俳人高田風人子の
作品をご紹介します。

秋風や
東郷さんの
銅像よ
第十一回（十一月の俳句）
高田風人子

第4句集『四季の巡りに』（2016年）所収。

「東郷さんの銅像」はい
うまでもなく、三笠公園
の東郷平八郎の銅像。東
郷は、日露戦争の時の連
合艦隊司令長官でした。
特に世界の海戦史上、稀
有の大勝である日本海海
戦の指揮で知られていま
す。攻撃直前の指令、
「皇國興廢在此一戦（皇
国の興廢この一戦にあ
り）」の碑が銅像の横に
あります。「東郷さん」
という親しげな呼びかけ
で、おだやかな秋日和の
なかの公園散策の様子が
感じられる句です。



洗足学園中学高校教諭
中島正二

横須賀製鉄所物語（小栗上野介③） <59>

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

「日米修好通商条約」批准のため、正使の乗船した「ポーハタン号」に同行する船の役割は何であったのでしょうか。正使一行のアメリカに持参する荷物が多く、「ポーハタン号」に積み込めなかったからでしょうか。

宗像善樹著『咸臨丸の絆』によれば、引用が少し長くなりますが、安政6年(1859年)11月24日江戸城桔梗の間において、老中より木村図書喜毅に対して遣米使節を内命する式が行われた。(略)松平和泉守から「上様におかれては、木村図書に特別の思し召しがおありでござる。それは我が日本国の軍艦を、遣米使節の海路を警備するための護衛艦として別船を仕立て、副使の木村図書を軍艦奉行として差し遣わし、彼地へ向かわせよ。」との御沙汰である。松平和泉守は続けて言った。「これは、ポーハタン号に搭乗する正使に病気や不測の事態が生じ、アメリカ国ワシントンへ上がること叶わざるときは、副使の木村図書が正使となりアメリカ国大統領に謁見いたさすべし、との御内意によるものでござる。しこうして、木村は副使といえども正使の新見と同格のお役目を担うことになるゆえ、さよう心得られたい」と将軍からの言葉を伝えました。

そして、木村図書が江戸城に呼ばれてから4日後の安政5年11月28日に木村は江戸城芙蓉の間において、正使新見豊前守、副使村垣淡路守、目付小栗豊後守、教授方頭取勝麟太郎らとともにアメリカに向けて出立するよう、正式に命じられました。木村図書喜毅は軍艦奉行に昇進し「撰津守」を名乗り禄高も千石から正使の新見と同額の二千石に加増されました。この様に幕府では正使の船に同行する「咸臨丸」について、大変に重要に考え提督の人選も慎重に考えて選考し、身分も正使と同等に処遇しました。

木村撰津守には、乗組員についてすべて一任されていたので勝麟太郎以下海軍操練所の幹部を始め、日本海軍の実カトップのメンバー他塩飽諸島・長崎出身の水主、火焚まで手を打つことが出来ました。しかし、木村撰津守はこの航海が真冬の太平洋を横断するので、日本人だけでは危険ではかと考え、宗像善樹『咸臨丸の絆』によると「木村撰津守は老中を通じてアメリカ公使ハリスに対し、アメリカ人船員の乗船と航海案内の協力を打診した…」その結果アメリカ海軍大尉ジョン・マーサー・ブルック以下アメリカ人11名を加え総勢105名の随行団となりました。しかし、日本人乗組員はアメリカ人の乗船に激しく反対しました。日本人だけにより初の太平洋横断を達成するのだと意気込みが、皆の心に燃え上っていたのです。

(元横須賀市助役 井上吉隆)

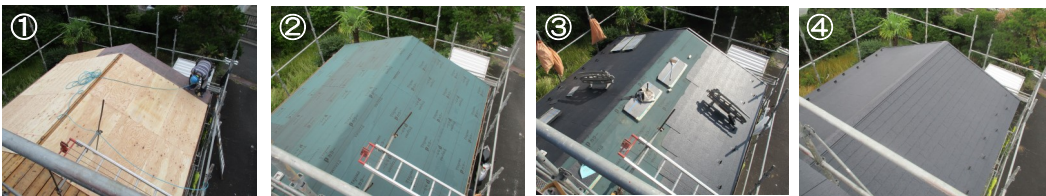


「咸臨丸の絆」
(宗像善樹著)

屋根の下地②

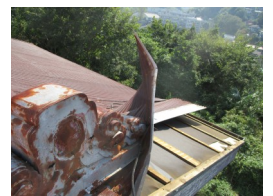
「屋根の下地①」に引き続き、コロニアルと金属板についてご説明させていただきます。

◆屋根材②<カラーベストコロニアル>



コロニアルは、①合板を下地にして、②防水シート（ルーフィングフェルト）を敷き③その上からコロニアルで仕上げ、④棟の部分に、棟包（金属）を設置します。仮に棟包やコロニアルが何枚か飛ばされたとしても、瓦と同様に防水シートが防水の役割をしているため、経年劣化等で傷んでいなければ、雨漏りをする可能性は低くなります。しかし、それらが飛ばされるということは、かなりの年数が経過しているということも考えられますので、注意が必要です。

◆屋根材③<金属板>



金属板の下地で防水シートが施工されていない場合は、直接雨が当たるため、雨漏りをする可能性があります。

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2019」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索